

施策番号 3-2-3	施策名 道路交通環境の整備	基本目標	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり		
		政策名	都市空間の整備と有効な土地利用の推進		
	主管課	建設都市整備課	課長名	木村 淳彦	内線 440
	施策関係課	企画財政課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
道路交通、公共交通における移動の快適性、利便性の向上をすすめます。		町民	・交通アクセスを強化する ・目的地までの快適な移動、利便性の向上をすすめる					安全で快適な生活を送ることができる	
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
①	バスやJRなど公共交通機関の利用に満足している町民の割合	%	42.4	37.3	32.9	50.0	50.0		
②	冬期間の移動(徒歩、車、公共交通機関等)は、安全安心と感じる町民の割合	%	58.1	51.5	45.9	60.0	60.0		
③									
成果指標設定の考え方		①道路交通及び公共交通環境が整備されてきていることから、段階的に50%を目指す。 ②効率的な除排雪作業を実施し、冬期間の快適な道路環境維持に努め、段階的に60%を目指す。							

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	766,459	655,567
人工数(業務量)	4.8275	6.0250

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	・昨年夏の台風災害により、公共交通機関の利用に大きく影響が生じたことや、冬期間の降雪量が多かったことなどが成果指標の減少要因と思われる。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	・公共交通機関の利用満足度は、各交通機関の利用状況を分析し、課題点に対する対応策を講じることで満足度の向上が見込まれる。 ・冬期間の移動に関する満足度は、降雪時期や降雪量によって大きく変動する。毎年、除雪計画を見直すことにより満足度の向上が見込まれる。
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町道・歩道・駐車場等維持管理事業 市街地・郊外地道路新設改良事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	●道路パトロールと維持修繕について、平成27年度から民間活力による包括的な委託により、道路の異状・危険個所の修繕を迅速に対応し、道路利用者の安全確保に努めた。 ●降雪及び風雪状況に応じた除雪とパトロールを適宜実施し、冬期間の道路利用者の安全確保に努めた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<<施策を取り巻く状況>> ・農業生産機械や輸送機械の大型化に伴い、安全な道路構造が求められている ・橋りょう長寿命化修繕計画に基づく修繕の推進が求められている ・早期除雪及び排雪路線の拡大を求める町民の意見が多く寄せられている <<今後の予測>> ・道路施設の経年劣化により、広範囲によるオーバーレイ及び改築補修の増加が見込まれる
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・町道及び歩道修繕等の要望が多く寄せられている ・除雪に関して、玄関先への雪寄せや、除雪した雪の左右均等化、交差点部の見通し改善を求める要望が多く寄せられている

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ●課題① 安全で安心な道路環境の整備 緊急時での道路網確保並びに交通渋滞緩和のために、町道イリスプラザ通の立体交差点化を含め、「芽室町道路マスタープラン」の見直しを行う。 住工混在による車両センター移転改築(住宅、小学校に隣接し、大型車両が出入りする) ●課題② 交通弱者への交通手段の確保 農村部の移動手段の確保 運転免許証返上者に対する移動手段の確保
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	次により前進していると評価する。 ●民間の力を活用した包括的な委託や町職員のパトロールなどにより道路利用者の安全確保をしており前進していると評価する。 ●雨水処理環境の整備を地道に続けてきている。		A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	●昨年の台風災害と、これまで推進してきた環境整備とは切り離して考えるべきである。	進捗結果			○		

A: 実現した
 B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
 C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
 E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	各種計画の見直しなど、総体的に施策は前進していると評価する。		A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標の低下について、降雪が原因とあるが想定されるものでもあるため、出来る範囲の対応を継続してほしい。 ●災害時の道路状況について、通行止め等の対応を地域と協同でできる仕組みがあると良い。 ●公共交通の満足度が低いため、時刻表の改善など町からの働きかけもすべき。 ●農村部と市街地を結ぶ公共交通について、実態にあわせた運行形態を検討してほしい。 	進捗結果			○		

A: 実現した
 B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
 C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
 D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
 E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した